

平成26年度 鶴見大学仏教文化研究所共同研究成果報告書

# 瑩山禪師『伝光録』

## — 諸本の翻刻と比較 (一) —

鶴見大学仏教文化研究所伝光録研究会

(代表： 木村 清孝)

編著

## 序

わが鶴見大学仏教文化研究所は、大学の設立母体である大本山總持寺第二祖峨山韶碩禪師の六百五十回大遠忌が厳修される本年、創立二十周年を迎えた。この節目の年にあたって、私たち所員は、研究所の更なる発展への大きなステップとなることを期して、瑩山禪師の主著『伝光録』の綿密な究明のための土台作りを当面の目標とする、新しい研究プロジェクトを立ち上げた。この研究を担うのが、「伝光録研究会」である。

創立時に公表された本研究所の「設立趣意及び設立経過」及び「規程」によれば、本研究所は「建学の精神の具現化、方法等の研究」を行い、大学の必修科目である宗教学の教授内容の研究、とくに「瑩山及び總持寺等の研究」を推進すべきことを標榜している。それゆえ、当然のことながら、これまでにも歴代の所員は、この重要課題に関して真摯な研究を行ってきた。そのことは、二十年來の『鶴見大学仏教文化研究所紀要』掲載の諸論文や御移転百周年記念に係る『大本山總持寺 住山記』をご覧いただければ、お分かりいただけよう。けれども、残念なことに、諸般の事情から「瑩山禪師の研究」という最重要課題に本格的に取り組むことはできずに来た。本研究会は、決意を新たに、これに正面から取り組もうとするものにほかならない。

参加メンバーは、特別顧問木村清孝、客員研究員尾崎正善、主任下室覚道、専任研究員池麗梅、兼任研究員古瀬珠水の五名である。

本研究会は、昨年の早春から設立の準備に取りかかり、五月二十日に第一回の読み合わせを行った。その後、月一回のペースで研究会を開いてきた。主な研究活動の内容は、後述の「解説」の中にも述べられるように、『伝光録』の古本、古形に遡及することを目指す、その諸本対校研究である。具体的には、それら諸本の対校作業と読み合わせを行いながら、『伝光録』諸本の特徴と問題点を探り、また成果刊行へ向けての課題等を討議することである。

私たちは、当初は今回翻刻・比較検討した「乾坤院本」「龍門寺本」「永光寺本」に加え、「永澤寺本」「東隆真師個人蔵本」など、閲覧可能な影印本数点も参照した。しかし、作業を進める中で、その繁雑さに加え、比較の際の提示方法など、課題が多いことが判明した。そこで、原本に近い形を見出すことを中心的な目標として、江戸時代以前のものとは仙英師閲覧本に限定して対校作業を行うことに方針を改め、研究活動を進めてきたのである。

今後も、長きにわたって順次発表されていくであろう本研究の成果は、まことに地味なものかもしれない。だが私たちは、これこそが『伝光録』及び瑩山禅師の研究における、ひいては禅思想史研究、仏教研究における真の基盤の一つとなることを確信している。斯学の興隆を期待する内外の関係者諸氏の倍旧のご支援とご協力を切に願いたい。

平成二十七年三月吉日

鶴見大学名誉教授

鶴見大学仏教文化研究所特別顧問

木村 清孝 識

# 目次

序	木村 清孝
目次	i
解題	尾崎 正善
『伝光録』「首章」「第一章」翻刻	7
一、 乾坤院本	8
二、 龍門寺本	14
三、 永光寺本	21
『伝光録』「首章」「第一章」—諸本比較—	29

伝光録研究会メンバー一覧

- 木村 清孝（代表、本研究所特別顧問）  
尾崎 正善（統括、本研究所客員研究員）  
下室 覚道（本研究所主任）  
池 麗梅（本研究所准教授）  
古瀬 珠水（本研究所兼任研究員）

平成26年度 鶴見大学仏教文化研究所共同研究成果報告書

瑩山禪師『伝光録』―諸本の翻刻と比較（一）―

平成二十七年（二〇一五）年三月三十一日発行（非売品）

編著 鶴見大学仏教文化研究所伝光録研究会

編集 鶴見大学仏教文化研究所

発行 鶴見大学

（神奈川県横浜市鶴見区鶴見二―一―三）

印刷・製本 株式会社D―サイト

（神奈川県横浜市神奈川区新子安二―三五―一〇）

本書の一部を無断にて転載・複製することを禁じます。  
©二〇一五年 鶴見大学仏教文化研究所